



①ハザトラウト



②アクアリウム・パンガンダラン



③ラフレシア



④西海岸の夕陽

インドネシア共和国 西ジャワ州 パンガンダラン



シスカ・
アンディニさん

パンガンダラン出身。
現在、八丈島のホテル勤務。

インドネシアと言えば、バリ、ジャカルタ、世界遺産のボルブドール寺院、プランパン寺院はおなじみですね。今回はそれと違うことを紹介します。

まずは言語と島についてです。国語はインドネシア語で、他にもスダ語、ジャワ語、マズラ語などたくさんの言語があります。大きな島はジャワ島、カリマンタン島、スラウェツ島、スマトラ島、ティモール島、パプア島です。ジャワ島には、西、東、中部の三州があり、私の生まれた所は、西ジャワ州のパンガンダランです。家族と話す時はスダ語ですが、学校ではインドネシア語で話します。スダ語は聞いたり話したりできま

すが、書いたり読んだりすることはできません。スダ語はとても難しいです。

次に私の故郷のパンガンダランについて紹介しましょう。PANGAN(パンガン)=食料、DARAN(ダラン)=移住者という意味で、魚や食べ物がたくさんあるので移住者が多くやってくるからだそうです。①「ハザトラウト」は漁師達が、神様に海の恵みへの感謝を表す伝統的な儀式です。この儀式は通常、ワヤンクリット(注1)、ダンドゥット(注2)、帆船のパレードなど、さまざまなエンターテイメントで盛り上がります。②「アクアリウム・パンガンダラン」(水族館)にはカラフルな熱帯魚やウミガメなどの大型生物もいます。トンネル形の水槽は、まるで海の中にいるような気分を味わえます。③「パンガンダラン自然保護区」では白い砂浜、珍しい洞窟、美しい滝。サル(注3)、シカ、鳥類、ラフレシア(注4)も見

(コーディネーター:編集ボランティア 芳賀 扶美世、協力:リードパークリゾート八丈島 副支配人 土岐様)

INFORMATION



インドネシア共和国

面積 約1,920,000km²
人口 約2.79億人
首都 ジャカルタ
言語 インドネシア語

られますし、第2次世界大戦中に、日本軍によって作られた人工の「日本洞窟」もあります。④「日の出(東海岸)と日の入り(西海岸)」晴れた日には、空がとてもカラフルに染まります。

最後に、故郷には多くの観光地がありますが、日本の景色も大好きです。だから、八丈島で仕事をするのは本当に嬉しいです。皆さんと八丈島でお会いできるのを楽しみにしています。

(注1)ユネスコ世界無形文化遺産にも登録された伝統影絵芝居。

(注2)インドネシアの大衆音楽の一つ。ロックンロールに近い音楽。

(注3)草食のシルバールトン、ジャバルトンはIUCNレッドリスト絶滅危惧種。

(注4)世界最大の花。寄生植物で根、茎、葉が無く花のみ。開花から1週間で枯れる幻の花。主にマレーシアとインドネシアでのみ生息。

多文化共生の
取り組みに
フォーカス!

外国人のための 就職活動セミナー

7月5日(土)に「外国人のための就職活動セミナー」を開催しました。日本での就職を目指す外国人が、日本の就職活動を学んで、効果的に事前の準備ができるように企画しました。

中国やフィリピン、メキシコ、アメリカ、スペイン、台湾、パキスタン出身者らが参加し、通訳が必要な人には相談員が同時通訳を行いながら進行了しました。

セミナーでは、講師の面接官としての成功談や失敗談を交えつつ、日本特有の就職活動の進め方、履歴書作成のアドバイス、就職面接での作法や振る舞いについて、面白くわかりやすい説明がありました。さらに、業界別の動向や求人ニーズ、外国人採用における企業の視点、志望動機の効果的な表現方法、そしてNG例とその改善策といった実践的な内容をやさしい日本語で丁寧に解説されました。



セミナーの様子

参加者から「満足いく支援があった」という感想があり、相談員一同、大変励みになりました。

次回は、学校関係者および日本語学校への周知や参加者のバックグラウンドを事前に把握し、よりよい支援となるように努めます。

(文・写真撮影:川崎市国際交流協会 中国語相談員 蔣 香梅)



きむら けんぺ
金春九講師
一般社団法人
日本外国人協会
副会長

「やさしい日本語」研修会

7月19日(土)に、「やさしい日本語」研修会を開催しました。当協会では、2007年から「やさしい日本語」の取り組みを始め、2011年度から「やさしい日本語」研修会を毎年開催しています。

今回は、国際交流基金日本語国際センター元専任講師の高俣建先生から「話し言葉」と「書き言葉」という切口で教えて頂きました。

高先生は、中国出身で、大人になってから日本語を学んだ外国人としての視点と、さまざまな国の日本語教師に日本語を教えている経験から、日本語のわかりにくい部分やどうすれば伝わりやすいか、エピソードを交えながら具体的に説明されました。

講義後のグループワークでは、留学生や外国人ボランティアに一人ずつ入ってもらったので、参加者からは「外国人の方からどこが伝わりにくいか、意見を聞くことができてよかった」と好評でした。他にも「説明が楽しく、事例もわかりやすかった」「他の研修ではやさしい日本語の定義、ルールなどの話が多いが、今日の研修が一番楽しかった」など、交流しながら学べる楽しい研修会となりました。



(文・写真撮影:川崎市国際交流協会 猿田 由貴江)